

令和3年度 実施事業の概要

施設名: 国立妙高青少年自然の家														
教育事業名: 「MYOKOボランティアキャンプ兼自然体験活動指導者(NEAL リーダー)養成研修単位互換事業」														
期間: 令和3年5月15日(土)～5月16日(日) (1泊2日)														
対象及び参加人数: 自然体験活動や青少年教育に興味関心をもつ高校生・大学生・社会人 34名														
目的: 講義や演習、野外体験活動等の研修をとおして、青少年教育におけるボランティア活動に必要な基礎的な知識・技術について学ぶ機会とする。														
事業概要: 上記目的のため、事業を実施した。34名(高校生1名、大学生32名、社会人1名)の参加者に加え、7名のボランティアスタッフが参加した。 各講習及び講師は、以下のとおりである。 <table border="0"><tr><td><input type="checkbox"/> 青少年教育(1.5h)</td><td>【講師: 妙高自然の家 所長】</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 安全管理(3h)</td><td>【講師: 頸南消防署 職員】</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> ボランティア活動の技術(4h)</td><td>【講師: 妙高自然の家 職員】</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 青少年教育施設の現状と運営(1h)</td><td>【講師: 妙高自然の家 次長】</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> ボランティア活動の意義(1.5h)</td><td>【講師: 新潟青陵大学 准教授】</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 青少年施設におけるボランティア活動①(1h)</td><td>【先輩ボランティア: 2名】</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 青少年施設におけるボランティア活動②(1h)</td><td>【講師: 妙高自然の家 職員】</td></tr></table>	<input type="checkbox"/> 青少年教育(1.5h)	【講師: 妙高自然の家 所長】	<input type="checkbox"/> 安全管理(3h)	【講師: 頸南消防署 職員】	<input type="checkbox"/> ボランティア活動の技術(4h)	【講師: 妙高自然の家 職員】	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設の現状と運営(1h)	【講師: 妙高自然の家 次長】	<input type="checkbox"/> ボランティア活動の意義(1.5h)	【講師: 新潟青陵大学 准教授】	<input type="checkbox"/> 青少年施設におけるボランティア活動①(1h)	【先輩ボランティア: 2名】	<input type="checkbox"/> 青少年施設におけるボランティア活動②(1h)	【講師: 妙高自然の家 職員】
<input type="checkbox"/> 青少年教育(1.5h)	【講師: 妙高自然の家 所長】													
<input type="checkbox"/> 安全管理(3h)	【講師: 頸南消防署 職員】													
<input type="checkbox"/> ボランティア活動の技術(4h)	【講師: 妙高自然の家 職員】													
<input type="checkbox"/> 青少年教育施設の現状と運営(1h)	【講師: 妙高自然の家 次長】													
<input type="checkbox"/> ボランティア活動の意義(1.5h)	【講師: 新潟青陵大学 准教授】													
<input type="checkbox"/> 青少年施設におけるボランティア活動①(1h)	【先輩ボランティア: 2名】													
<input type="checkbox"/> 青少年施設におけるボランティア活動②(1h)	【講師: 妙高自然の家 職員】													
成果: <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 新型コロナウイルス感染拡大予防に留意したプログラムや環境整備に努め、ボランティア養成共通カリキュラムに基づき実施した。今年度は、上越教育大学、新潟青陵大学、信州大学、金沢大学の学生に加え、高等学校の学生や青少年教育施設の社会人の参加もあり、多様性のあるグループワークを展開できた。<input type="checkbox"/> 先輩ボランティアに活動前のアイスブレイクを行ってもらうことで、参加者にボランティアに対する親近感をもたせたり、参加者同士のコミュニケーションをとったり、リラックスして活動に入ったりするよう進めることができた。<input type="checkbox"/> ボランティア活動の技術においては、提示された食材から自分たちでメニューを考えて調理する「びっくり野外炊事」を実施した。グループでの活動を通して、活発的にコミュニケーションをとったり、協力したりすることで、グループの仲を深めながら知識や技術を学ぶ姿が多く見られた。<input type="checkbox"/> 平成28年から実施しているボランティア育成の「MYOKOモデル」に基づき、アイスブレイクや野外炊事などの各活動において先輩ボランティアがロールモデルとして活動する姿を見せることで、ボランティアの魅力を伝えることができた。<input type="checkbox"/> 青少年施設におけるボランティア活動①では、発表者が自身の体験を振り返って、ボランティア活動の魅力を話した。参加者のアンケートからは、「ボランティア活動が楽しみになった」「早く活動してみたい」「わくわくした」などの意見があり、参加者のボランティア活動に対する意欲を高めることができた。<input type="checkbox"/> 自然体験活動指導者(NEAL リーダー)養成研修の参加につなげるため、MYOKO ボランティアキャンプとの受講カリキュラムの互換性や資格取得のメリットなどを参加者に呼び掛けることができた。														
課題: 今年度も一定の新規ボランティアを確保できたが、本事業に参加する学生や活動を継続する学生の大学に偏りがある。少数派の近隣大学の学生を呼び込むためにも、コロナウイルスの感染状況や各大学のボランティア活動における履修カリキュラムなどの情報を踏まえ、広報の方法を検討する必要がある。														